

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501297		
法人名	システム通信(株)		
事業所名	グループホーム「和」みずもと つくしユニット		
所在地	室蘭市水元町53-12		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりに合わせた支援を行っている。人としての支援を行っている。自立支援へ向けて見守り、残存機能の維持に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501297&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501297&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年12月7日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域の高齢化の実状を踏まえ、市内で4番目に設立した事業所である。商店街から離れており、日常的に利用できる店は少ないが、事業所の左右に小高い山並みを望み、大学の学生寮や学校と小さな神社に囲まれた静かな住宅街にあり、地域住民との交流が図りやすい環境にある。職員は利用者が日々笑顔で過せるよう、思いを大切に寄り添いながら自立支援に努めている。第三者の目線を大切に課題を職員全体で検討し、積極的に改善に取り組み、地域交流も徐々に広がり、利用者が地域で安心して暮らし続ける環境が整いつつある。管理者は認知症の理解のための啓発を検討中であり、事業所の機能の活用と学生や地域住民との交流を進めることで、共に協力関係の構築に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念をスタッフ全員で唱和し日々理念の実践に取り組んでいる。	開設当初の理念を基本に職員全体で再検討し、「いつも笑顔で、本人の意思を大切に、地域と共に生活し自立に向けた支援」を盛り込んだ独自の理念を作り上げている。毎日のミーティングの中で唱和し、職員全体で理念の共有を図り、日々のケアの基本としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り、文化祭、草刈り等参加。	事業所は、地域の住民として地域の草刈りや清掃活動に参加している。町内の祭りに事業所も出店したり、文化祭には利用者の作品も展示して交流を図っている。また、これまで内部で行っていた敬老会を事業所の駐車場を利用して行い、地域住民に呼びかけ絆を深める機会を設けている。事業所の機能を活かし、地域へ認知症の理解を広めるよう検討中であり、共に支え合う関係を構築するよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不十分である。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、合同で行っている。	市の方針で市全体のグループホームが一同に会して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括センター職員、事業所職員等を構成員として、事業所の状況や行事報告をし、意見やアドバイスを運営に活かすよう努めているが、事業所外での開催のため柔軟な日程が確保できず家族や地域住民の参加が難しい状況である。	地域密着型サービスとして、家族や地域住民の参加を促す取り組みに期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に市担当者の助言を受けると共に連携の強化に努めている。	日々のケアの中での疑問点や困ったときに市の担当者から助言を受け連携に努めているが、日常的な協力体制には至っていない。	市は、介護保険の保険者であり地域福祉を推進する立場にある。利用者が地域で暮らし続けるためには行政の積極的な係わりが不可欠で、日常的に協力体制を図り、利用者が安心して生活できるよう期待したい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先にチャイムは設置しているが、施錠はしていない。	職員は高齢者虐待や身体拘束に関する研修を随時受け、拘束の行為を認識してケアに努めている。日中は玄関の施錠をせず、チャイムの音や目配りで安全確認をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会へ参加。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関へ設置している。	家族が来訪した際には、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりに心がけ、利用者の居室で過ごす場合は、職員がお茶を進めながら話を聞くよう努めている。訪問が難しい家族には、電話で希望を聞き、運営に活かすよう取り組んでいる。外部の相談窓口も紹介している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	みんなで話し合っている。	職員は日々の中で気が付いたことを管理者に話したり、月1度のユニット会議で意見や提案が言える機会がある。代表者や管理者は和を大切に職員のストレスに配慮し、共に考え運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績等で手当がついている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例発表等後、同業者と講習会等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心して努めている。傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞き要望にそうよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ること、出来ないことを聞き出し、又生活の上で見極め支援する様話し合い努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で手伝っていただけることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも話していただける様、職員側からも情報を伝え、共に本人を支えていける様話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しい所もあるが、ホームへ来訪の時はゆっくり過ごしていただいている。	時折訪問する利用者の友人も高齢化しており機会は減ってきているが、訪問時にはゆっくり過せるよう支援している。来客があった場合は家族にも報告している。また、利用者が以前住んでいた所を通院の帰りに訪ねる等、それまでの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士互いに支え合い生活している。入居者が1人で居る時は声かけを行ったり横に座る様努めている。見守りは常に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町で会う機会があり経過をきくことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が安心して生活が送れる様話し合っている。	利用者の日々の行動や会話から、一人ひとりの思いや意向を把握し支援している。困難な場合も職員全体で話し合い、思いに沿うよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族から情報をもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で伝え、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に行い、介護計画をたてている。状況に応じてその度、見直している。	ケアプランは基本的に3ヶ月毎に作成しているが、変化時にはその都度柔軟に変更している。家族の意見や希望は来訪時や電話で聞き取り、毎月のユニット会議で出し合い、3ヶ月毎のカンファレンスで職員の意見やアイデアも盛り込み介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共通のため申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向をふまえ、行える様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭、お祭り等、本人の意思を確認し、地域へ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人に合わせ病院も特定をしていない。家族の希望も大切にしている。	利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診となっている。医療機関が少ないという地域性もあり、協力医との協力関係も十分に得られない状況ではあるが、緊急時には公的医療機関での受け入れがある。利用者や家族の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調を伝え、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーの方と連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	不十分である。	事業所代表者や管理者は重度化や終末期に向けた対応研修を受け、指針を作成し家族への同意も得ているが、現在、看取りを要する利用者がいないことも有り、職員全体で共有するまでには至っていない。	利用者も高齢化しており、今後看取りの状況が想定される事を踏まえ、重度化や終末期のあり方や対応について職員全体で話し合い、関係者全体で支援できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防本部へ講習を受けに行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての訓練は行っているが、地震水害に対しては不十分である。	事業所の建物は、耐震耐火構造で自然災害を意識している。スプリンクラーを設置して、火災対策も実施、避難訓練を年2回行っているが、2階からの避難口は階段と非常口の避難梯子となっており、緊急時の避難は難しい環境である。地域住民の協力体制に向けた働きかけは考慮中である。	建物の構造上一定の安心感はあるが、特に人手の少ない夜間の災害時に全利用者を安全に避難させることは困難を極める。地域交流が整いつつあるので、地域住民と話し合い、日常的に協力が得られるよう取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、声かけを徹底している。	一人ひとりのプライドを大切に、状況を見て声かけを行っている。排泄の誘導もさりげなく声をかけ、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む物を着ていただいたり、身につけたりしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、もり付け、茶わん拭きを行っている。	利用者のできることを大切に、食事の準備や盛り付けを職員と一緒に、会話を楽しみながらゆっくりと食事をしている。献立は2ユニットとも同じであるが、管理栄養士のアドバイスを得ながら、バランスを考えた献立で残す利用者は少ない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い、行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせ支援を行っている。	安眠を妨げないように、夜間のみリハビリパンツを使用する利用者はあるが、日中はパットやトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたこんだてを立てている。毎日ラジオ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望も確認し、入浴の支援を行っている。強く拒否がみられた時は、声かけや時間をずらしタイミングを計っている。	希望により何時でも入浴できるが、週2回以上を基本として支援している。現在は、病院受診前日や夕方に入浴する利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室への行き来が可能である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師にいつでも相談できている。常に体調管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、もり付け、洗濯物たたみ、トランプ、カルタ等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそっての外出はなかなか難々しいが、受診時に希望があれば寄ってきている。	大型ワゴン車があり、四季折々に戸外へ出る機会を多くしている。花見やぶどう狩り、ホテルでの食事など、楽しみごととなっている。事業所周りを散歩したり、隣接する神社をお参りするなど外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時に渡しているが個人的にあまり使用する事がない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	パネルヒーターのランプが気になることがあり、白いテープでみえなくする等工夫している。火がみえないので「寒い」と訴えることがあるが、室温は保たれている。	2ユニットとも同じ作りとなっている。台所と対面式に食堂兼居間と畳じきのスペースが続いている。L字の大きな窓があり、明るくゆったりとした造りとなっている。廊下の中ほどに談話スペースを設け、利用者同士が談笑したり、カラオケをするなど、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以外とリビング近くのベンチに座り入居者同士、入居者とスタッフのコミュニケーションの場になっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にあつた物を持ってきていただいている。	本人の思い出深く、使い慣れたタンスやテーブル、仏壇など様々な家具調度品を置き、居心地良く過ごしている。職員はそれまでの暮らしの延長を意識した支援に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来ることは見守りを行って、出来ないことへのみの支援を心がけている。			